

J R 東海 労 な ご や

2016年6月23日 No.1069
J R 東海 労 名古屋 地方 本部
発行者： 山 田 哲 也
編集者： 教 宣 部

71年前米軍上陸から始まった沖縄の悲劇はいつ終わるのか

6月23日 沖縄慰霊の日

71年前の1945年6月23日、沖縄戦の組織的な戦闘が終結した日を沖縄では慰霊の日としています。毎年糸満市の摩文仁の平和記念公園で行われる追悼式典は沖縄では特別の日として大切にされています。

沖縄戦は太平洋戦争で唯一国内で地上戦が行われ、一般住民を巻き込み20万人の人々が犠牲になりました。そして71年前、米軍の上陸から始まった沖縄の悲劇は、今も続いているのです。軍隊に蹴散らされた命は今現在も軽んじられているのです。つい最近も、米軍関係者による暴行殺人事件が発生し20歳の女性が犠牲になりました。6月19日には追悼の県民集会被催され、那覇市の公園に6万5千人が集まりました。

挨拶に立った翁長知事は日米地位意協定見直しと海兵隊の撤退に取り組む決意を訴えました。また殺された女性と同世代の大学生が登壇し『生きる尊厳と生きる時間が軍隊によって否定される。命を奪うことが正当化されるこんなばかばかしい社会を誰が作ったのか』と言葉を涙で詰まらせながら挨拶しました。

原因は基地があるから

沖縄の海兵隊はベトナム戦争、アフガン戦争、イラク戦争など世界中の戦場に投入され、激戦地に送られた兵士は身も心もやんで帰還します。その繰り返しがこの様な事態を作っています。狭い島に戦場が隣り合っているようなものなのです。

さあ選挙に行こう

戦争ができる世の中を誰が作ろうとしているのか、今回の選挙はまさに岐路です。どんな理屈を付けても戦争は人の命を奪うことが正当化されるのです。戦争をしない国を作るため選挙に行きましょう。

6月23日沖縄慰霊の日を迎え先の大戦で犠牲になった全ての人の冥福を祈ります。